

# 令和7年度病害虫発生予察情報 発生予報第14号(1月)

令和8年1月14日  
発表：福島県病害虫防除所

## 【注意が必要な病害虫】

野菜 花き	■ サツマイモ：サツマイモ基腐病-③ (令和7年11月7日付け防除情報参考)
	■ トマト黄化葉巻病 (TYLCV) -③
	■ トマトキバガ -③



病害虫防除所  
HPは  
←こちらから

※ 上記の表に記載された病害虫は、下記の①～③に該当します。

- 注) ①現状において、注意報レベルの防除を要すると判断された病害虫  
②「1 主な病害虫の発生予報」のうち、予察調査の結果、発生時期  
が「やや早い」、発生量が「やや多い」と予測された病害虫の中で  
特に懸念される病害虫  
③「1 主な病害虫の発生予報」以外で調査の結果、今後、県全般的  
に発生が多く問題になると判断した病害虫



病害虫に関する  
防除対策の  
ページは  
←こちらから

## 1 主な病害虫の発生予報

### (1) 果樹

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
モモ	せん孔細菌病	中通り	一	やや少ない	春型枝病斑の発生予測モデルによると、発病枝率が2%以上となる場割合は、平年より低いと予測された（-）。	本病は、気象条件によつては急激な拡大のおそれがあるため、発芽期以降、春型枝病斑のせん除等を徹底する。
	モモハモグリガ	中通り	一	やや少ない	越冬量調査において、発生地点割合は平年よりやや少なかった（-）。	初期の発生密度を抑えるために、第1世代幼虫発生期（落花10日後）にネオニコチノイド剤を散布する。

注) 予報の根拠の中で (+) は多発要因、 (-) は少発要因、 (±) は平年並要因であることを示す。

### (2) 野菜花き

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	全 域	一	平年並	発生場割合は平年並であった（±）。	多発すると防除が困難になるので、発生初期から薬剤防除を徹底する。
	灰色かび病	全 域	一	平年並	発生場割合は、平年並であった（±）。	過湿にならないよう換気を行う。 発病果や罹病した果梗、老化葉などはハウス内に放置しない。
	アブラムシ類	全 域	一	平年並	発生場割合は平年並であった（±）。	低密度時から薬剤防除を実施する。

イチゴ	ハダニ類	全 域	一	平年並	発生ほ場割合は平年並であつた（±）。	低密度時から薬剤防除を実施する。 抵抗性の発達が懸念されるので、殺ダニ剤の選択には注意する。 カブリダニ製剤を放飼している場合は、天敵に影響の小さい薬剤を選択する。
	コナジラミ類	全 域	一	平年並	発生ほ場割合は平年並であつた（±）。	低密度時から薬剤防除を実施する。
	アザミウマ類	全 域	一	平年並	発生ほ場割合は、平年並であつた（±）。	発生が多くなると果実被害が生じるので、低密度時から防除を実施する。

注) 予報の根拠の中で (+) は多発要因、 (-) は少発要因、 (±) は平年並要因であることを示す。

## 2 発生が懸念される病害虫

果樹 共通	<b>■カメムシ類</b>  クサギカメムシのむしろトラップによる越冬量調査では、桑折町では平年より多かったため、当該地域では今春の越冬世代の発生が多くなることが予想される。また、福島市・会津若松市・いわき市では平年並の状況であった。なお、冬期の低温による死亡や春期の気温によって発生動向は左右されるほか、チャバネアオカメムシカメムシ及びツヤアオカメムシについては越冬量調査を行っていないため、今後の予察予報などの各種情報を参考に発生動向に注意する。
	<b>■カイガラムシ類</b>  ナシマルカイガラムシの寄生や果実被害は、リンゴ園のほか一部のモモ園でも確認されている。 発生が多いほ場では、ワイヤーブラシなどで越冬部位をよくこすり落とす。また、発芽前のマシン油乳剤の散布の効果が高いので、必ず防除を実施する。ただし、樹勢が低下したナシには使用しない。 詳細については、令和8年1月14日発行の病害虫防除対策（カイガラムシ類）参照。 <a href="https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/722445.pdf">https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/722445.pdf</a>
サツマイモ	<b>■サツマイモ基腐病</b>  昨年の9月に中通り地方でサツマイモ基腐病の発生が確認されています。本病は塊根が収穫時に無病徴であっても、収穫後貯蔵中に腐敗することがあるため、貯蔵中も定期的に腐敗状況を確認しましょう。次作に向けた対策として、未発生ほ場で生産された種苗の確保や植付前の種苗消毒を実施しましょう。  本病の被害様相や防除対策については、令和7年度病害虫防除情報（令和7年度11月7日付け発表）を参照してください。  <a href="https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/715221.pdf">https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/715221.pdf</a> また、病害虫防除所HPに掲載している病害虫防除情報「注意喚起 サツマイモ基腐病のまん延防止対策」もご覧ください。  <a href="https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/satsumaimo-motogusare.html">https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/satsumaimo-motogusare.html</a>

トマト

### ■トマト黄化葉巻病 (TYLCV)

トマト黄化葉巻病が発生している場においては、コナジラミ類の防除を徹底してください。また、発病が疑われる株については速やかに抜き取り処理を行ってください。

病害虫防除所 HP でも情報を掲載しているため、下記の URL も参考にしてください。

【注意喚起～トマト黄化葉巻病 (TYLCV) のまん延防止対策～】

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/544337.pdf>

【トマト黄化葉巻病 (TYLCV) 対策 チラシ】

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/648953.pdf>

【トマト黄化葉巻病 (TYLCV) 対策 パンフレット】

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/648954.pdf>

### ■トマトキバガ

1月上旬時点で、県内複数地点の夏秋トマト栽培終了後の施設にて、トマトキバガの発生が確認されています。残さや施設内の雑草はトマトキバガの発生及び増殖源となるので、速やかに処分しましょう。

また、トマトキバガは耐寒性が高いことが知られているため、ハウスの被覆はできる限り除去してなるべく長期間積雪や寒気にさらしましょう。